

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	鹿児島県指定第4670102823
法人名	社会福祉法人恩賜財団済生会支部 鹿児島県済生会
事業所名	グループホーム武岡五丁目
所在地	鹿児島市武岡5丁目16-23 (電話) 099-282-6081
自己評価作成日	平成 28年1月5日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成28年2月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

武岡団地の中心に位置し、近隣の病院、学校、郵便局、金融機関やスーパーマーケットなど商店が立ち並ぶ人通りの多い賑やかな幹線にあります。周りに閑静な住宅街も広がり生活の場として退屈しない毎日が過ごせます。近隣には沢山の公園があります。天候や体調に合わせて、散歩などで体力作りが出来、庭先の花、木を眺め季節を感じながら地域の方とも馴染みの交流がもてます。または、季節ごとに外出や外食など行い社会性が保てるように努めています。私たちは全職員が「鹿児島で生活している」を実感できるように取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成14年に開設された当ホームは、1ユニットで運営されており、理・美容院、学校、スーパーや公園も隣接し、活気があり利便性の高い住宅街の幹線沿いに位置している。地域交流に積極的に取り組み、毎年、恒例である団地の夏祭りには法人全体でブースを設け、地域住民との触れ合いの大切な機会となっている。利用者も歩行者天国を楽しんでいる。ボランティアの受け入れもあり、日常的には近隣の買い物や散歩を通して住民と挨拶を交わす関係も出来ている。徐々にではあるが、地域に受け入れられて来ており、ここに至るまでの事業所の地道な努力が伺える。

管理者や職員は、少人数なればこそその細やかなケアを心掛けており、個々の思いを大切に地域の中でその人らしく安心して暮らすことができるように、理念の実践に努めている。

職員は離職が殆どなく、一旦、辞めて復職する職員もおり、有資格者のベテランが多数を占めている。職員間のコミュニケーションや連携は良好であり、働きやすい環境は、気持ちのゆとりにつながりサービスの質向上にもつながっている。今回の外部評価を通して、実施状況を全員で取り組みケアの振り返りを行っている。今後の課題や取り組みを明確にすることで、長年積み上げたサービスを基盤とし、新たな展開が期待されるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念について職場内に掲示をし各自確認、共有し実践につなげている。スタッフ会議時、理念に基づいた支援が実践できるように取り組んでいる。	住み慣れた地域で安心した暮らしやその人らしさを大切にしたケアを心掛けている。地域との交流も大切にしながら、理念の具体的実施に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域文化祭の作品出品や行事などは積極的に参加し、スーパーへの買い物時地域の方々と挨拶を交わし日常的に交流に努めている。また、散髪等も近所の床屋や美容院へ出向いている。	日常的に散歩や買い物を通し、地域の方と触れ合う機会を多く持つように心掛けている。地域行事の参加やボランティアの受け入れも積極的に行い、馴染みの理・美容院など地域資源もフルに活用し、地道に関係を築いてきている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	街の中心的環境の利点もあり地域の方が見学や、福祉相談所を開設し介護相談などを随時受け付けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況や利用者の状況外部評価結果を報告し家族や第三者の意見を聴いて話し合った意見を参考にしサービス向上に活かしている。	ホームの現状報告や地域の情報交換を交え、サービスの質の向上に努めている。夜間帯のポータブルトイレの設置場所なども検討にあがり改善につなげている。家族参加者の固定化の見直しや会議の案内、結果の報告など家族へ向けた発信の方法も今後、検討している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村窓口担当、地域包括支援センターの職員と情報交換を行いながら助言を頂いている。介護相談員の派遣受け入れにて利用者さんの質の向上に繋げるようにしている。	運営推進会議への出席もあり、現状への理解は得られている。障害者手帳の手続きや市の福祉バスを利用するなど相談や福祉利用なども含め、良好な関係を築いている。研修参加で職員のスキルアップも図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全対策委員会からの情報等で勉強会に参加し、共通認識を図り身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は施錠はしていないが交通量が多い場所の為、安全面を考えて周辺症状が著しい場合には、やむを得ず玄関を一時的に施錠している。	職員はマニュアルの確認や研修を通して身体拘束の弊害については全員が理解している。幹線道路沿いの環境から安全面へ配慮し、一時的に施錠する時もあるが、外出傾向の利用者には、素早く気配を察知し、散歩に出かけるなど思いに寄り添った自由な生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は、高齢者虐待防止法など研修は積極的に参加し、具体的な行為等職員会議にて勉強して、職員は周知しケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内で研修など行い資料を基にスタッフ会議など共通理解を深めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用案内説明書や重要事項説明書により家族へ説明を行い同意を得ている。又不安や疑問について十分な説明を行い理解、納得を図っている。退所後についても相談、援助を行う旨説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の受け入れを行っており利用者の意見を聞き運営の参考にしている。利用者の相談や意見を聞く機会も設けておりご家族の面会時相談に応じている。	特に家族会は設けてはいないが、敬老会や運動会などホームの年間行事には多数の参加がある。面会も多く意見や要望の聞き取りの機会にしている。法人全体の会報をはじめ、ホーム独自で「ふれあい通信」を発行し利用者の日常生活の報告も都度、行っている。個別での意見要望も上がり、全員で話しあい、改善や見直しに向け丁寧に対応している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやスタッフ会議など意見や要望を聞き、ブロック会議や運営会議にて提案している。	ブランクを経て復帰する職員もおり、殆どが勤続年数が長く、資格を有したベテラン揃いである。管理者とはハード面の要望やシフトの見直しなど、意見や要望は気軽に話せる関係が出来ており、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の状況を把握に努めて、労働時間等働きやすい職場環境を考慮している。。資格取得や勤務実績に向けた支援を行い、取得後は本人の意向を尊重し活かしてもらっている。「法人内でのアンケート調査あり」		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内でも研修の機会があり殆どの職員が研修に参加できる環境があり研修受講者は研修内容について、スタッフ会議等で報告勉強し専門的知識を養っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム熊毛支部連絡協議会の研修や、同法人グループホームとのケア現場研修にて交流を図り質の向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の施設見学や面談で生活状況を十分把握するように努め、心身の状態や本人の思いに向き合い、不安がないように努力し信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が求めていることを理解し、事業所としてはどのような対応ができるか、十分話し合い安心していただけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時困っていること、不安なことに対して、できることはすぐに対応するが、困難なことは必要に応じて他のサービス機関につなげられるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、支援される側という意識を持たず、お互い一緒に生活している。人生の先輩である方から学ぶこともありホームでの生活の場を共に支えあう関係作りに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡は密に取り、家族参加の行事などを企画し参加していただいている。家族と一緒に本人を支える関係作りを築くように、ご家族にも役割を持っていただくよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出や面会(知人、親戚など)は、いつでも機会を持って頂くように常にお願している。面会がない時はこちらからの連絡を取らせてもらうこともある。	地域の馴染みの理・美容院を定期的に利用している。友人や知人が懐かしんで来訪したり、ホーム近隣に自宅がある利用者は食事に帰ることもある。面会も多く、家族と墓参りに行くこともあり、これまでの馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自由に互いの居室を訪問したり談話できる環境作り。コミュニケーションが苦手な方は、職員が介して交わえるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した後も訪問したり必要があれば側面からの相談支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ把握に努めている。会話や行動表情などから思いに気づき、本人の気持ちに考慮して困難な場合ご家族の力を得ながらケアの方向性を検討している。	思いの伝達が可能な利用者もおり、希望食や行きたい場所などを把握し思いに添う支援が出来ている。困難な場合は表情や所作、家族からの情報を基に本人本位に検討している。介護相談員も受け入れており、第三者を通した思いや意向の把握にも役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	介護支援専門員、家族や知人などから情報を得て本人との話の中で情報を得、本人全体の把握に努めケアに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員全員が利用者の生活リズムを理解するとともに情報を共有するよう努めている。本人の出来る力、解る力の発見していくことにも努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族の意向が実生活で満足できているか家族訪問時には、現状報告を行なっている。ニーズの変化等関係者の意見を職員会議にて話し合い、取り入れて介護計画に反映させている。	利用者、家族の意向を踏まえ、毎月行う全員参加のスタッフ会議で、各利用者の現状を全員で話し合い、本人本位の介護計画を作成している。具体的な意見や要望の聞き取りの工夫も検討しており、家族支援や社会生活との関わりなど身体状況のみならず利用者個別の生活全般を反映した介護計画になるように心掛けている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、食事・排泄等身体状況及び日々の暮らしの様子や本人の言葉、エピソード等を記録している。いつでも全スタッフが確認できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応しそれぞれ満足できるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が安心して地域で暮らせるように警察、消防等協力支援体制を取っている。地域の行事（祭り、校区文化祭）など参加している。鹿児島市福祉バスを利用し初詣などの外出を行った。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族が希望するかかりつけ医になっている。専門医受診時も紹介状や連携を取りながら、適切な医療を受けている。	利用者の日頃の健康状態を理解し、情報の共有を図る意味でも定期受診や他科受診は基本、家族にお願いしている。緊急時などはホームで柔軟に対応している。週1回、訪問看護ステーションとの契約による適切な健康管理が行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を一名雇用し、日々相談を行いながら支援をしている。また訪問看護ステーションと契約をし、週1回の健康管理、異常時や必要な時は随時相談できる体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には入院目的を短期間に達成しスムーズに退院ができるように退院計画を病院関係者と、本人家族と話し合い必要な支援を行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の終末期のあり方について説明している。入院加療後重度化したケースでは、ホームでの介護が可能か又今後の対応について、主治医、家族、職員が話し合い方針を決めて対応している。看取りにも取り組む。	入居時に家族に「重度化した場合における対応にかかる指針」を定めた文書で、説明し同意を得ている。これまでに看取りの経験もあり、現在も希望の利用者がいる。職員はベテランも多く、看取りに対しての意識や知識を高く持っている。段階に応じ、主治医の指示のもと、都度、家族の意向を再確認しながら方向性を共有し、ホームで出来る最大限の支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員で勉強会を行ない、急変や事故発生時に応じた応急手当や初期対応が出来るように備えている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防署と連携を図り事業所内の訓練は行っている。地域住民の参加協力を得た避難訓練は出来ていないが働きかけは行っている。</p>	<p>消防署立ち合いの夜間訓練とホーム独自で昼間の自主訓練を年2回行っている。居室が二階に集中している為、避難用のベランダを増設し、誘導を容易にしている。家族や地域参加型の訓練も視野に入れ、今後も利用者の安全管理の強化を図る意向である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩である事を常に頭に置き一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねないように言葉掛けを会議や日々の関わりの中で職員同士が、注意し徹底を図るようにしている。本人のプライバシーに、関することは個人情報保護法の理解をし秘密保持を図っている。	羞恥心への配慮や、個々のプライバシーを損なうことがないように努めている。管理者は、職員の日々の業務の中で、言葉かけや対応で気づいた時には、その都度、注意を与え、資質の向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が表れやすいような日々のケア、関係づくりに努め誇りやプライバシーをそこねないような言葉掛けを実践している。意思表示の困難な方には自己決定が出来るような声かけ、働きかけに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れは持っているがその日の状態や希望を出来るだけ取り入れている。利用者個々に応じた生活を見守りながら過ごしてもらうように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	定期的に訪問理美容に来てもらいそれぞれ個性に合わせたヘアスタイルにしてもらっている。同美容院へも散髪に出向いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後の下膳やテーブル拭き、時折食器洗いをしていただいている。	メニューは職員が交代で立案し、法人の管理栄養士の栄養指導もある。嚥下や咀嚼に配慮しミキサーや刻み対応の利用者も居る。殆どが介助なく自分のペースで完食しており、家庭的で栄養豊かな食事になっている。季節に応じた行事食の用意や外食でメニューの自己決定も利用者の喜びであり、年間を通し、食への楽しみを工夫している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容を記録し、又個別の摂取量や好き嫌いを把握している。管理栄養士の専門的アドバイスももらっている。水分量は摂取量を把握しており、少ない利用者には御茶以外に好みの飲み物で摂ってもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、能力に応じて職員が見守り、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行い、週1回消毒を行っている。定期的に訪問歯科の検診、指導をもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	安易に紙パンツ等使用せず、排泄意識を持てるようにトイレでの排泄を支援している。夜間熟睡度により尿取りパットやポータブルトイレを使用する場がある。	日中はトイレでの排泄を支援している。夜間のみポータブルトイレを使用する利用者の中で、リハビリパンツから布パンツに改善した例もある。自立の利用者もおり、継続と改善に向け支援している。排便管理は特に重視している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	味噌汁の野菜具沢山にしたり、牛乳やヤクルトなど働きかけることで自然排便ができるように取り組んでいる。必要な方には、医療機関の支持のもと緩下剤調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	曜日、時間は一応決めているが体調、要望、希望に合わせた入浴ができている。入浴を拒む方に対しては言葉掛けや対応の工夫、その方に合わせた入浴支援を行っている。	男女別に曜日を設けているが、順番や湯加減など希望に応じ柔軟に対応している。男性職員は重度化の利用者を除き、異性介助には配慮した体制をとっている。浴室のすべり止めや段差のスロープ設置、寒暖の室温の空調にも気を配り、リスク対策も徹底している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状態や希望で不安なく眠れる空間を整えている。いつでも好きな時間に休息してもらうようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬説明をケース記録にファイルしいつでも見られるようにしている。疾病の症状や薬の一覧表等確認できるようにしている。内容変更時には引継ぎノートに記録し各自確認をしスタッフ間で確実に共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野で一人ひとりの力を発揮してもらえるようお願いできそうな仕事を頼み、感謝の言葉を伝えるようにしている。それぞれの経験や知恵を発揮できる場面を作り楽しみや自信につなげる様支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気、本人の体調、希望に応じて、季節を肌で感じてもらい、心身の活性につながるように毎日の散歩、買い物をしている。外食、お弁当を持って戸外に出かけている。	年間行事に外出を組み込み、季節毎の花見見学やドライブなど、なるべくホームに閉じこもらない生活支援に努めている。個別で天文館など繁華街の散策や希望の買い物に付き添う支援もしている。天候や体調を踏まえ、近隣の散歩は日課になっており、日常的に外気に触れる機会を多く持てるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>特に、お金を使うことはない。必要な時は一緒に出掛けお金を使うときは立替払いを行っている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者の希望に応じて適宜日常的に電話は行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の希望や生活歴を考慮しながら本人の思い出の品物、写真や季節の手作り作品、季節の花を飾ったりしている。</p>	<p>大型のダイニングテーブルが2つ置かれ、利用者同士の関係に配慮し席を決めている。ソファやリクライニングチェアを配置し、テレビを観たり、懐かしいBGMなどを楽しみ、利用者は好きな場所でゆったりとくつろげる共用空間である。台所から伝わる調理の音や臭いは家庭的な雰囲気である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>殆んど1階のホールに居ることが多く入居者の方、スタッフと会話をすることが多い。ゆっくりしたい方はいつでも部屋に行っていただいている。様子を見ながら声を掛けている。その時々に行ったテーブル配置、席移動などで場所の工夫をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が自宅で使用していた家具なじみの物を持ってきていただき、家族の写真や装飾等居心地良く過ごせるようにしている。	長年、慣れ親しんだタンスや机、椅子などが持ち込まれ、本人が居心地良く過ごせるように配置されている。神仏を供えたり、家族写真を飾るなどし身近に安心を感じられるような居室作りになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの理解力に応じてトイレ表示、居室に絵付き写真に名前を表示して、混乱なく生活が送れるように支援している。個々の身体能力を活かせる居室配置を適正に行い、安全に自立できる生活環境を考慮している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない